

城守人(しろもりびと)の町 ～現代版足軽が息づくまちづくり～

(提案の要旨)

江戸時代の芹橋地区は、城を最前線で守る「足軽」の居住区であった。現代の生活に合わないため、足軽組屋敷は減り、高齢化も進んでいる。しかし、江戸時代からの町割や30軒の屋敷は往時のまま残されている。このヒューマンスケールの歴史ある町並みに魅力を感じる人々が集まり、これからの城下町を守る「現代版足軽」として、芹橋に愛着を持って通い、住み続けることで、芹橋を持続的に保全・再生していく。

「城守人」＝現代版足軽を、「集う」「通う」「住まう」という3つのアクティビティに類型化し、それぞれに合わせたまちづくりをソフト、ハードの両面から行っていく。まず、芹橋の情報や文化を発信することにより、人々が集まり、交流人口が増加する。次に、訪れた人々が芹橋に魅力を感じて、リピーターとなり通い始め、滞在人口が増加する。さらに、芹橋の居心地のよさを感じて住み始め、定住人口が増加する。

地域課題となっている5つのテーマを基に、まちづくり方針として、「城守人の心得五箇条」を定める。五箇条は、一、みどりを守るべし。一、まちなみを守るべし。一、にぎわいを守るべし。一、いのちを守るべし。一、くらしを守るべし。である。

地区内に多く存在する空家を解消するために、その立地特性や建物特性に合わせて、「集う人」「通う人」「住まう人」それぞれをターゲットとした多様な建物利用を図る。観光ルート沿いには情報発信や憩いの場などの観光客のための施設を導入して、賑わいを創出する。「集う」ゾーンに隣接して、宿泊や別荘利用など定期的な来街者のための受け皿を導入して、滞在利用を促進する。芹川沿いや西側街区を中心に、生活者のための落ち着いた居住環境ゾーンとして、定住型住宅や生活支援施設を導入して、定住人口の回復をめざす。

歴史的建造物や空家・空地を活用した空間整備により、「芹橋八景」として地域の新たな景観を創造する。辻番所や御普請方カフェなどの「集う」空間、大工養成塾や隠れ家レストランなどの「通う」空間、防災ひろばや土手ひろばなどのコミュニティのための「住まう」空間をつくり、城守人が様々なアクティビティを展開できるようにして、芹橋地区の持続的な活性化をめざす。



建物を復元した「御普請方カフェ」



コミュニティを育む「防災ひろば」